函館税関

Be Ambitious！新しい時代を切り拓く

江戸幕府は、安政５（1858）年、米・蘭・露・英・仏の５か国とそれぞれ通商条約を締結し、安政６（1859）年、箱館・横浜・長崎を「貿易港」として開港しました。函館税関は安政６年６月（1859 年）、箱館港が開港した時に外交・貿易事務を処理するため設置された「箱館運上所」がそのはじまりで、その後、「函館運上所」、「函館税関」と改められて今日に至っています。冬期には雪の降る地域が多く、厳しい自然環境の中で、職員が一丸となって日々の業務に取り組んでいます。函館税関管内における令和４（2022）年の輸出貿易額（確々報値）は約 6,097 億円であり、輸入額（同）は約２兆 6,142 億円です。

1

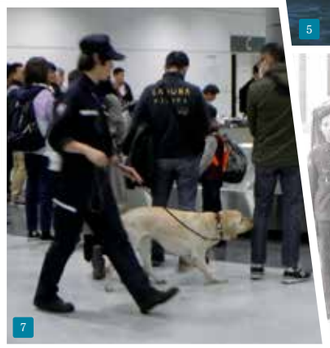
2

3

4

5

6


7

8

1 3代目庁舎（現在） 2 初代庁舎 3 昭和47年旅具検査風景 4 昭和28年監視艇 5 広域監視艇しらかみ 6 冬季のコンテナ検査風景 7 麻薬探知犬マックス 8 昭和10年官車（税関長車）

函館税関のあゆみ

» 嘉永７（1854）年　ペリー提督、箱館に来航

ペリー提督は、嘉永７（1854）年の日米和親条約締結後、箱館港を捕鯨船の食料・燃料の補給基地として活用するため来航し湾内調査を行った。これを契機に、箱館は異国情緒あふれる国際都市として大きな発展を遂げていった。

» 安政６（1859）年　箱館港、開港

箱館港は、米・蘭・露・英・仏との修好通商条約締結により、外国貿易港として開港し、箱館運上所を開設した。

» 明治２（1869）年　箱館から函館へ

箱館が函館に改称されたことに伴い、運上所も函館運上所に改められた。

» 明治９（1876）年　明治天皇ご来函

明治天皇は、明治丸にてご来函、税関波止場からご上陸され、函館税関にてご休憩された。

» 明治 42（1909）年　樺太を管轄

樺太（サハリン）に大泊税関支署（現在のロシア連邦コルサコフ市）が開設された。さらに、大正 11（1922）年には樺太に真岡税関支署（現在のロシア連邦ホルムスク市）が開設された。

» 昭和 47（1972）年　第 11 回冬季オリンピック札幌大会開催

２月に、日本及びアジアで初となる冬季オリンピックが札幌で開催された。函館税関は、税関長をトップとする組織委員会を設立し、警察等の関係機関と連携し、札幌大会が円滑に運営されるように支えた。

» 平成 20（2008）年　北海道洞爺湖サミット開催

７月７日から３日間北海道洞爺湖サミットが開催された。米国における同時多発テロ（2001.9.11）以降、日本で開催される初めてのサミットであり、函館税関は関係機関と一丸となって、テロ行為等未然防止のため取締りを行い、同サミットは成功裏に終了した。

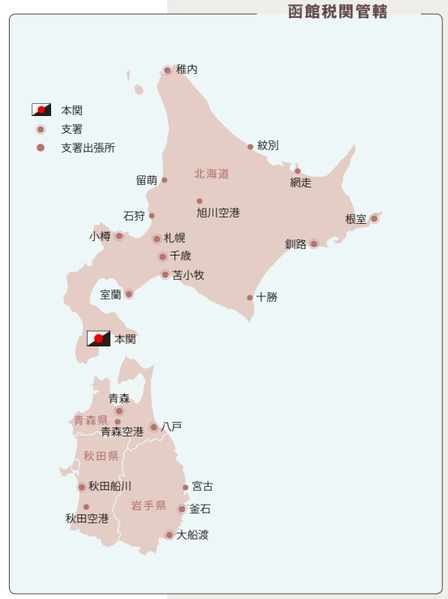
» 平成 23（2011）年　東日本大震災発生

３月 11 日 14:46 東北地方太平洋沖地震（M9.0）が発生し、大津波発生により青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉各県沿岸地方に甚大な津波被害が起こった。函館税関管内の複数の官署が浸水により使用不可能となる甚大な被害を受けたが、こういった状況下においても、関係機関及び関係業界の協力を得て、民間事業者の活動に支障がないように尽力した。

新しい時代を切り拓く

近年における訪日外国人旅行者の増加、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大、越境電子商取引の飛躍的な進展、その他社会構造の変化など税関を取り巻く環境は今後も大きく変化し続けることが予想されます。今後も、新しい時代の変化に柔軟に対応し、日本経済の発展と社会の安定に貢献するため、函館税関としても、引き続き、どのような環境下にあっても、職員一同全力を尽くしていきます。

函館税関管轄



函館税関の管轄

函館税関は、北海道及び青森県、秋田県、岩手県の北東北３県を管轄しており、本関は北海道函館市に所在しています。管轄区域の面積は９税関の中で１番大きく、日本の国土の約３分の１という広大な区域となり、そのため本関以外に 22 の出先機関（13 支署と９出張所）を設置しております。管内には 19 の国際貿易港（開港）と６の国際空港（税関空港）があり、開港の数は全国税関第２位、税関空港の数は、全国税関第１位となります。

（令和４(2022)年12月現在）